

令和六年四月三日（水）、東京都調布市 調布文化会館たづくり「くすのきホール」に於いて「第三十五回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

大会賞

みなちがふ道来てけふのさくらかな

盛田 道子

抜かずおく波郷の墓のはこべらは

森尻 禮子

稲田 眸子選

特選

丸くまるく雨の波紋や蘆の角
百年後あけるカプセル風光る

滝本 史代
竹下 幸子

入選

みなちがふ道来てけふのさくらかな

盛田 道子
林 勝利

朝東風やそば打つ音の深大寺

高橋 雪子

武蔵野の空へ双手を花辛夷

鈴木 恭子

たましひのゆらめくしだれざくらかな

小山 良枝

鳴り響く厄除け太鼓花の雨

前田 智子

うぐいすの声杖として城跡へ

吉村 昭彦

止り木のやうなベンチや桜狩

小西 弘子

さざなみにさざなみあらた仏生会

曾根新五郎

おびんづるさまを撫で花冷の誕生日

中川 純一

囀りや鳥語わかればなほ楽し

小林 葆子

虚子の句碑訪うて彼岸の深大寺

萩原 一志

おん墓の表も裏も陽炎ひて

三浦 明

花董いとしき丈と思ひけり

平沼佐代子

クローンのいづれ人にも花の冷え

大塚 次郎

野遊びの野川に沿うて子の駆くる

杉本 光祥

おどり疲れ惚け伸びきる踊り子草

佐藤 邦子

老幹は太く逞し花の雨

菊田 和音

支部長の率ある蕎麦屋花の昼

木村 美翠

カリヨンの流るる中の花大樹

後藤 清美

昼灯す蕎麦屋立てこみ花の雨

山本 雅子

角谷 昌子選

特選 さざなみにさざなみあらた仏生会

みなちがふ道来てけふのさくらかな

水草生ふせせらぎの譜を変へながら

入選 波郷句碑はけの遠近芽吹き初む

違へずに己が影へと落花かな

白木蓮原始の森の匂ひして

たましひのゆらめくしだけざくらかな

山門を出でて春光新たなる

蒼天へ櫂若葉の翼張る

天蕎麦の海老を分けあふ花の下

句碑を読むふたつの背中あたたかし

武蔵野の土を育み木の芽雨

なんじやもんじやの芽吹きの勢草田男碑

花冷や火の熾りたる朝の庫裡

湧き水や馬酔木の花の重き白

掬ふ手にあはき光の芹の水

雀の子鬼太郎茶屋の軒先に

鷹の巣を守るロープを張り渡し

一山の一郭囃す百千鳥

うぐひすの声杖として城跡へ

アネモネやきつぱりものを言ふ瞳

撮りたての鳥をみせあふ春休み

花時の雨や偲ぶは杏子さま

曾根新五郎

盛田 道子

齊藤 満月

大塚 美孝

坂西 涼太

頓所 友枝

小山 良枝

水谷 友二

小森 泰子

高橋 雪子

山中 洋子

牧田ひとみ

島 昌子

石原 杏

花田 浩子

宮本 笙子

涼野 海音

瀬戸口靖代

横田 澄江

吉村 昭彦

平沼佐代子

田村 唯子

木村 茜

坂本 宮尾選

特選 抜かずおく波郷の墓のはこべらは

初桜すでに波郷へ供へあり

祈ぎ事の護摩木ひしめく木の芽風

入選 土塁のみ残る城跡春の雨

御朱印を受くる大寺花曇

花冷や火の熾りたる朝の庫裡

北窓を開く読経と銅鑼の音と

朝まだき蕎麦屋灯す花の雨

森尻 禮子

秋元ユキ子

島 昌子

倉田 陽子

斉藤 明子

石原 杏

前田 智子

堤 京子

つばめ来るバス乗り継いでゆく朝に
うぐひすの声杖として城跡へ
さくらさく交番前の停留所
鐘楼の石の三段鳥ぐもり
カリヨンの鳴りて華やぐ桜かな
筏なすほどならねども落花浮き
営巢を眺めてをりぬ花曇
先達の句碑を巡りて花の雨
撮りたての鳥をみせあふ春休み
花時の雨泥亀の知らぬこと
花董いとしき丈と思ひけり
みなちがふ道来てけふのさくらかな
今生といふ一瞬のさくらかな
母子像にとどくカリヨンの昼
老幹は太く逞し花の雨

行方 克巳選

特選 さくらまつりカリヨンもまた春奏で
野遊びの野川に沿うて子の駆くる
武蔵野の土を育み木の芽雨
入選 囀やメタセコイアのとつぺんに
土塁のみ残る城跡春の雨
句碑を読むふたつの背中あたたかし
池の面のうららを生めり鯉の鱗
囀りや字体違へし師弟句碑
武蔵野の芽吹き空やせつせつと
カリヨンの響薔薇の芽育ちつつ
水草生ふひかりあふるる湧水池
掬ふ手にあはき光の芹の水
雀の子鬼太郎茶屋の軒先に
花の雨木霊目覚むる音のして
アネモネやきつぱりものを言ふ瞳
うす紅の神代桜今日マドンナ
吟行の雨それはそれ桜餅
耳澄ます白鳳仏に囀れり

苗村登志子
吉村 昭彦
苗村登志子
五味 新悟
中村 阿弥
早坂 洋子
ローバック恵子
吉井 康廣
田村 唯子
岸本 圭舟
平沼佐代子
盛田 道子
齊藤 玲子
衣川 洋子
菊田 和音
吉村 昭彦
杉本 光祥
牧田ひとみ
福本美恵子
倉田 陽子
山中 洋子
丹羽 啓子
頓所 友枝
阿部理恵子
堤 京子
阿竹 恵
宮本 笙子
涼野 海音
宮崎 清美
平沼佐代子
森尻 禮子
山中 洋子
三段寄ナミ

盆栽の幹が真つ直ぐ四月馬鹿
花の雨鬼太郎の下駄は屋根の上
月と日のひかりをまとひ落椿
止り木のやうなベンチや桜狩
水草生ふせせらぎの譜を変へながら

藤川三枝子
困 喜江
齋藤 満月
小西 弘子
齋藤 満月

福神 規子選

特選 抜かざおく波郷の墓のはこべらは
囀に囀り空に待ち合はず

森尻 禮子
坂西 涼太

入選 みなちがふ道来てけふのさくらかな
花曇舌にほどくるざらめかな

盛田 道子
小山 良枝

たましひのゆらめくしだれざくらかな
山門の黒きをくぐる花の雨

小山 良枝
五味 新悟

句碑を読むふたつの背中あたたかし
花冷や火の熾りたる朝の庫裡

山中 洋子
石原 杏

草萌ゆる武蔵野我ら大地の子
うぐひすや小流れに声弾ませて

宮崎 清美
杉木 美加

おほどかな仏像排す木の芽雨
風たちて軽やかとなる糸桜

橘川 寿子
小林 美峰

アネモネやきつぱりものを言ふ瞳
さくらさく交番前の停留所

平沼佐代子
苗村登志子

空広くなりたる朝を囀れり
止り木のやうなベンチや桜狩

瀬戸口靖代
小西 弘子

線刻の延命菩薩花の雨
撮りたての鳥をみせあふ春休み

渡辺 敏恵
田村 唯子

蕎麦打ちの肩に気骨や辛夷咲く
さくらさくら白鳳仏は玻璃の奥

鈴木 美枝
田村 唯子

我儘をたまには通す一輪車
おん墓の表も裏も陽炎ひて

大西こず枝
三浦 明

今生と云ふ一瞬の桜かな

齊藤 玲子